

はじめに

「先生、うちの子はがんになりませんか？」

「先生、将来うちの子は頭がおかしくなったりしませんか？」

「先生、放射線のせいで頭痛がします」

「先生、放射線のせいで食欲が落ちました」

「先生、放射線のせいで……」

二〇一一年三月十一日以降、このようなセリフを何度聞いたでしょうか？　そして、この状況は、日増しにひどさを増しています。

初めに結論をいってしまえば、私は今回の福島原発の事故で大人も子供もがんが増えることはないと考えています。また、今起こっている不快な症状は少なくとも放射線の影響ではありません。

そのようにお話をして、

「そんなのはうそだ」

といって、現在はお話すら聞いてもらえない状況です。

その気持はとてよくわかるのです。日本中のメディアが「放射線は危ない、大変だ大変だ！」といい、日本の歴史に残る迷首相が「福島の問題は数十年かかる」といっていましたから。

よってこの本では、現在のこの福島の放射線問題に対して「大丈夫ですよ」という立場から、「科学」と「疫学調査」という武器を持ってお話を進めたいと思います。

そしてさらに、今、日本中のお母さんが「放射線、放射線」といっていますが、私たちの子供たちの周りには、現在の福島の放射線問題より何倍も恐ろしいものに囲まれているという真実のお話をしたいと思います。

私も三人の子供を持つ親です。しかも被災県である茨城に居を構えています。

しかし、二〇一一年三月の春休みには実家のある九州には帰っていませんし、毎日子供たちには外で元氣いっぱい遊ばせています。また被災地応援セットとして宅配業者から福島の野菜を毎週購入し、茨城産の魚をばくばくと食べています。

私自身、放射線問題で揺れる福島県南相馬を中心に支援物資を運んだり、被災の片付けなどのボランティアに何度か伺わせていただきました。

福島の放射線なんてなにも問題ないと自信を持っていますので当然の行動です。そのかわり、放射線よりはるかに恐ろしい〇〇、〇〇、〇〇などからはできるだけ離れて生活をしています。

では、これから、現在の福島の放射線がなぜ問題がないのか、また子供たちの周りにある、放射線よりはるかに恐ろしいものとはなんなのか、それを一緒に考えていきたいと思います。